

道徳地区公開講座 実践報告

今年度の道徳地区公開は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から学校公開は行いません。代わりにホームページ上にて実践報告を行います。ご覧ください。

道徳授業実践報告

1年1組

【主題名】

おおきく そだって (生命の尊さ)

【教材名】

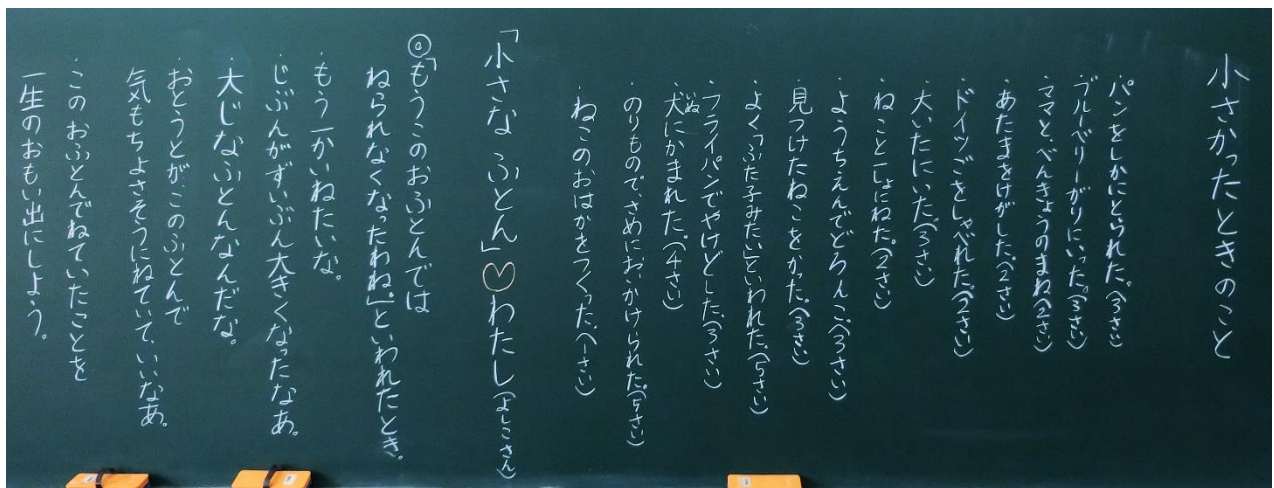
ちいさな ふとん

【ねらい】

生まれたばかりの弟の様子から、自分の成長に気付くよしこの姿を通して、大きくなったと感じることについて考えさせ、命を大切にしようとする心情を育てる。

【実践報告】

導入として、生まれたばかりの赤ちゃんが成長していく写真を提示し、どのように大きくなっていくのかを確認しました。その後、自分たちが小さかったときのことで、覚えていることを聞きました。楽しかったことや嫌だったことなど、たくさん発表することができました。その後、教材「ちいさなふとん」の範読を主人公のわたし(よしこさん)の気持ちになって聞き、わたしの赤ちゃんに対する気持ちや、わたしが「もう このおふとんでは ねられなくなったわね。」とお母さんに言われたときの気持ちを考えました。まとめとして、自分が「大きくなったな」と感じるタイミングについて考えました。



1年2組

【主題名】

おおきく そだって (生命の尊さ)

【教材名】

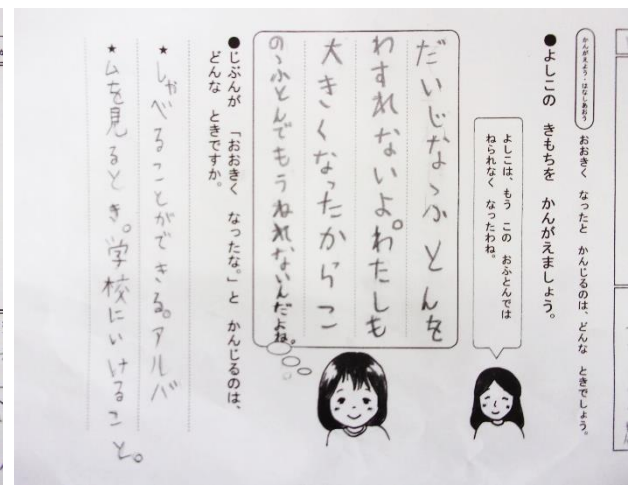
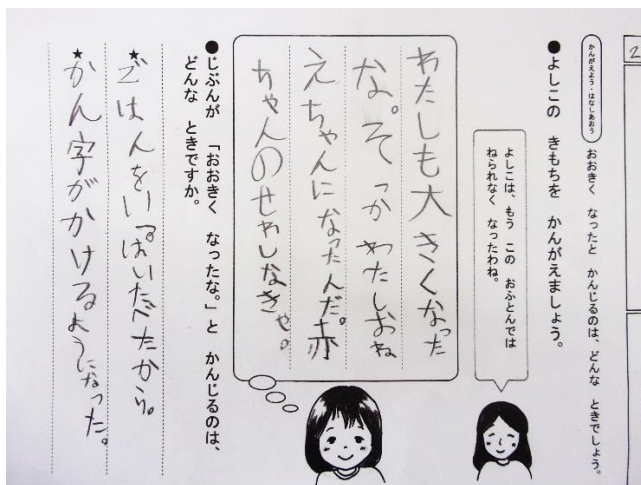
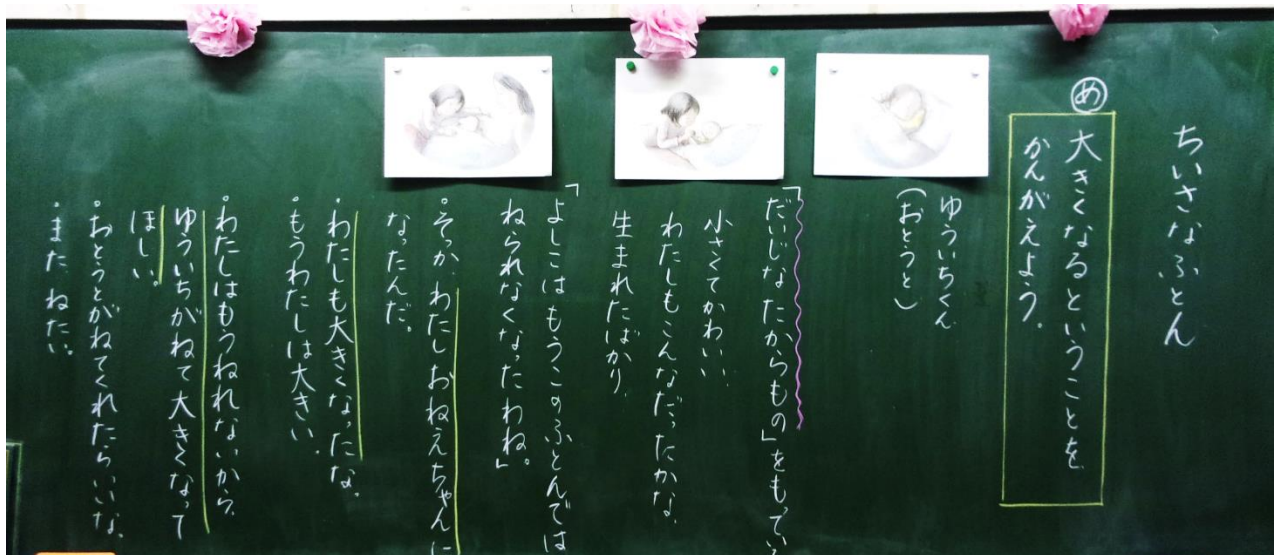
ちいさな ふとん

【ねらい】

生まれたばかりの弟の様子から、自分の成長に気付くよしこの姿を通して、大きくなったと感じることについて考えさせ、命を大切にしようとする心情を育てる。

【実践報告】

導入では、自分が小さかった時のことを話し合いました。自分が覚えている楽しかったことや、おうちの方から教えてもらったエピソードなど、いとおしそうに振り返っていました。教材の話を読み、弟の誕生と自分の成長について主人公の「わたし」の気持ちを考えました。自分が使っていた布団が小さくなった事実を知り、少しの寂しさや自分の成長への気付き、弟への愛情など、色々な意見が出されました。最後に自分が「大きくなった」と感じる時をワークシートに記入することで、自分の成長を実感し、命の大切さについて考えました。



1年3組

【主題名】

おおきく そだって (生命の尊さ)

【教材名】

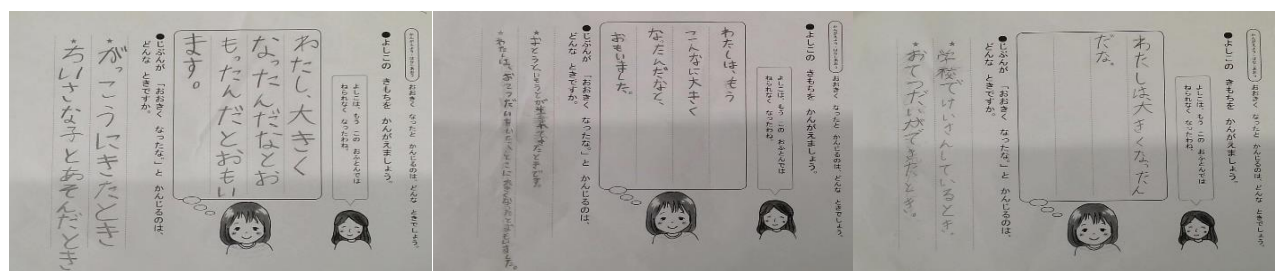
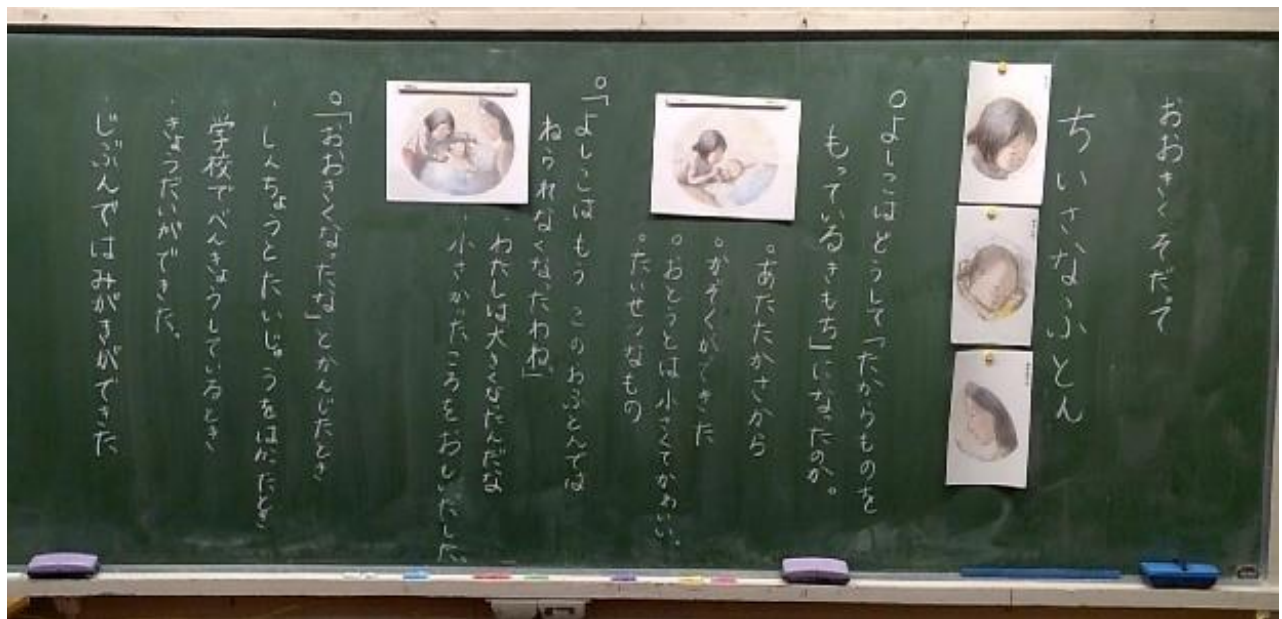
ちいさな ふとん

【ねらい】

生まれたばかりの弟の様子から、自分の成長に気づくよしこの姿を通して、大きくなったと感じることについて考えさせ、生きることの素晴らしさを感じ、命を大切にしようとする心情を育てる。

【実践報告】

登場人物のよしこの気持ちを考えることを通して、人が成長する不思議さやよさについて考えました。「もう この おふとんでは ねられなくなったわね。」とよしこがお母さんに言われた場面では、「わたしは、もうこんなに大きくなったんだな。」「小さなころを思い出すな。」とよしこの気持ちを考えました。よしこの立場を借りて考えてきた成長することのよさを、自分のこれまでの生活につなげて、考えました。そして自分が『大きくなったな。』と感じるのは、身長や体重を測ったときや弟や妹が生まれたとき、自分よりも小さな子と遊んだとき等の考えが聞かれました。



1年4組

【主題名】

せかいの こどもたちと ともに (国際理解、国際親善)

【教材名】

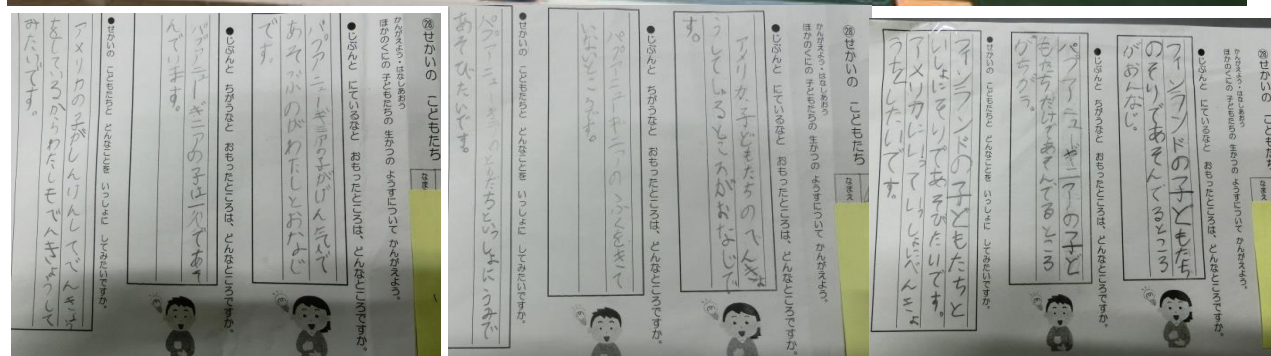
せかいの こどもたち

【ねらい】

世界の子供たちの日常を写した写真を通して、他国の生活の様子について考えさせ、さまざまな国の人々や文化に親しもうとする心情を育てる。

【実践報告】

導入として、知っている国の名前を出し合い、世界には色々な国があることを確認しました。その後、色々な国の子供たちの様子が分かる写真を見て、何をしているところかを考えました。次に写真の子供たちの様子で、自分たちと似ているところと違うところを見つけました。見つけながら「楽しそう」「すごいなあ」という声が多く、写真の子供たちの様子を興味を持って見ている事が分かりました。まとめとして最後に、世界の子どもたちと、どんなことをいっしょにしてみたいかを考えました。



2年1、2、3組

【主題名】

ものを大切に（節度、節制）

【教材名】

一本のえんぴつのむこうに

【ねらい】

鉛筆や消しゴムなど、身の回りのものを大切に使う態度を育てる。

【実践報告】

落とし物の鉛筆を改めて見つめ、大切にしていないときの気持ち（もったいなさ、悲しみなど）に気づきました。さらに思いを深めるために、その鉛筆はどのようにして自分の手元に届くのか考えました。鉛筆会社のHPに載っている「鉛筆のできるまで」と「いっぽんの鉛筆のむこうに」（福音館書店出版）という絵本から鉛筆の原料調達・輸送・製造・販売でいろいろな人と携わっていることを知り、自分の鉛筆がこんなに多くの人のおかげで使えていることを実感していました。今後は、「鉛筆を大切にしたい」という声が多数上がり、授業後に自分の鉛筆に名前を書いている子の姿も見られました。



自ぜんからはじめて、はこばれて作られるものをわがわがにすてるのは、自ぜんと作るためにかわって来た人の力をむだにするということだから、わがわがには、すてたくない。

☆今日の学びゆうで思ったこと、これからの生活に生かしたいことを書きましよう。

作る会社の人のねがっている通りにえんぴつをつかおう、と思いましたが、おとしもの入れに入っているおとしものをぜんぶ見て自分の外なかがくに入らなうと思ひます。

☆今日の学びゆうで思ったこと、これからの生活に生かしたいことを書きましよう。

3年1組

【主題名】

命のふしぎ (生命の尊さ)

【教材名】

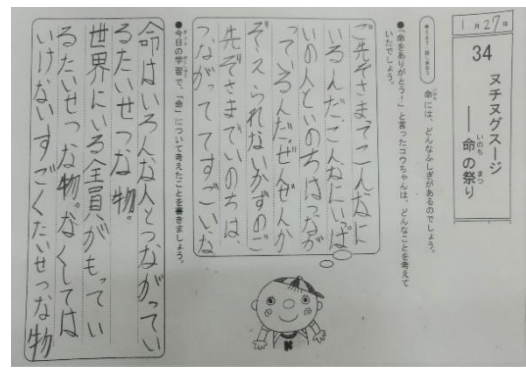
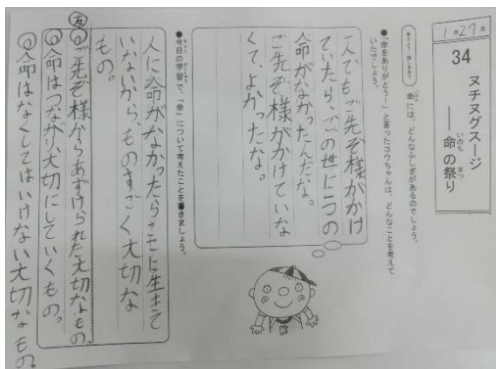
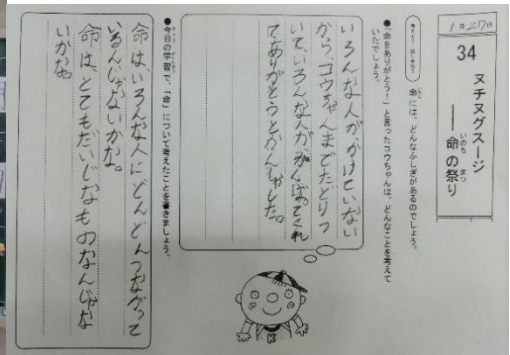
ヌチヌグスージ ～命のまつり～

【ねらい】

命にはどんな不思議があるかについて考えさせ、受け継がれていく命を大切にしようとする心情を育てる。

【実践報告】

導入として、命とは何だろうという話から命のつながりや知らない不思議なことがたくさんあることを確認しました。沖縄のお墓参りの様子を題材とした命の祭りの話から、生命のつながりがずっと続いてきたものであること、これから自分もつないでいく大切な命をもっていることについて考えていきました。登場人物の「オバア」の話から児童が主人公の気持ちになり、自分に置き換えて生命のつながりについて考えました。自分のところまで命のリレーをつなげてくれたご先祖様に感謝の気持ちを抱いたり、これまで以上に「命」を意識して考えたりできました。今後、自分たちの命を大切にしなければいけないという気持ちを多くの児童がもつことができました。



3年2組

【主題名】

みんなが使う物

【教材名】

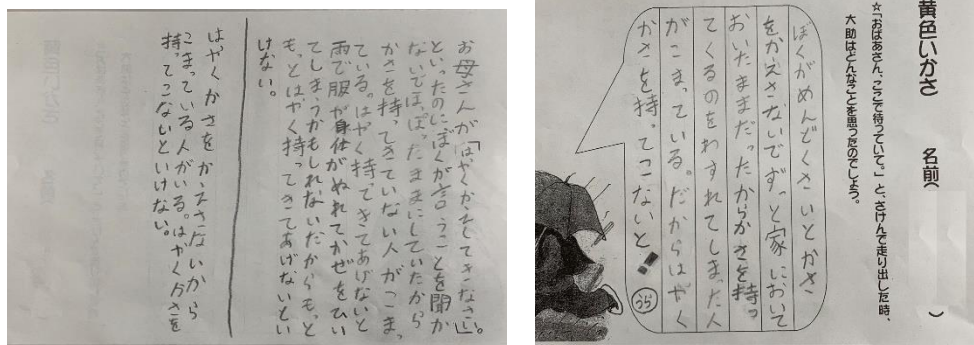
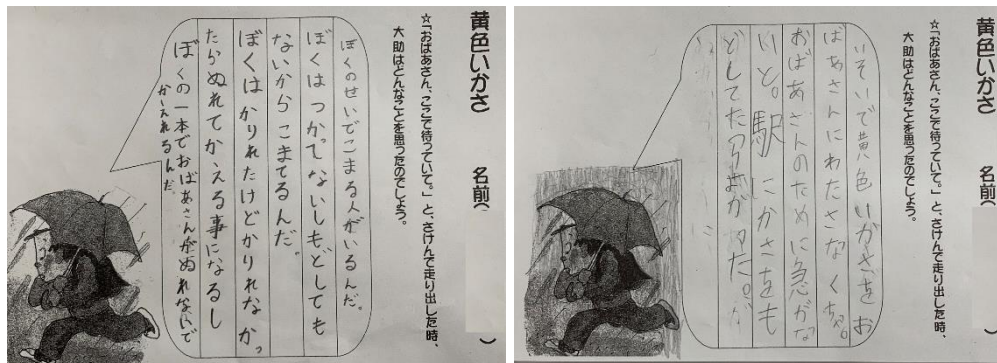
黄色いかさ

【ねらい】

みんなが使う物を大切に、人に迷惑をかけないようにするという心情を育む。

【実践報告】

「自分一人くらい。」「他の人が返してくれれば、何とかなるはず。」という思いを抱いたことは少なからずあるのではないのでしょうか。駅の傘を借りても返さない大助の行動に、共感しながらも、最後におばあさんの言葉を受けて走り出した姿を見て、借りた責任で返すことだけでなく、母に指摘されたときに返していたら良かったという後悔・反省の気持ちが出てきました。また、私たちの身の周りに数多くある公共物を、自分の責任で借り、自分の責任で返すという思いを抱くことや、「誰かが返せば」という「誰か」には、自分も含まれていることに気付くことができました。



3年3組

【主題名】

明るい心で（正直・誠実）

【教材名】

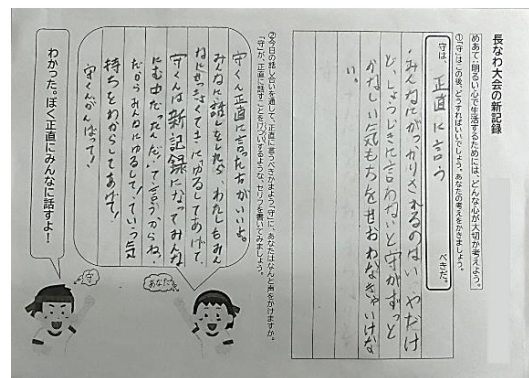
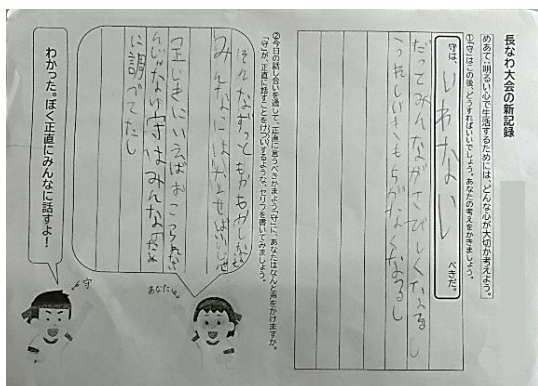
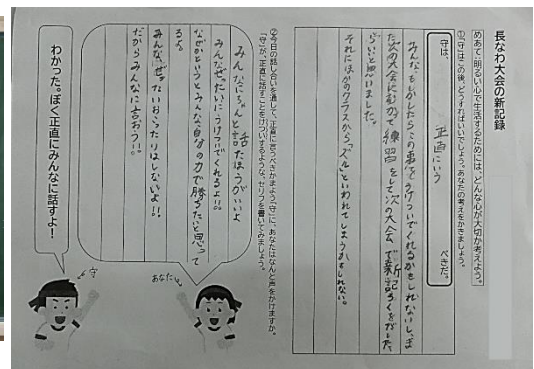
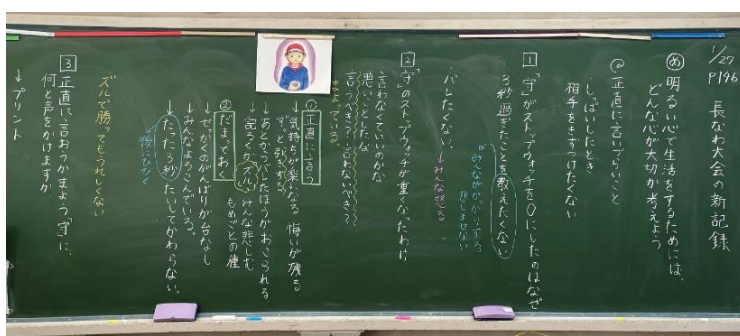
長なわ大会の新記録

【ねらい】

明るい心で生活するために必要なことについて考え、周囲に流されず強い心をもって、自分の過ちを素直に認めようとする判断力を育てる。

【実践報告】

記録会でのタイマーを押し忘れたことで、記録が上乘せされたことを正直にみんなに伝えるか、黙っておくかを考えました。「正直に言わないとずっと、気持ちを引きずる」「黙っておけば、みんなが悲しまない」といった意見で対立しながらも、それぞれの思いを認め合いました。また「ズルして勝っても、友達も自分もうれしくない」と、明るい心で生活することに着目して考えられ、中には、正直に伝えることは大切だが、勇気を要するものだと気づき、「友達と一緒になら言えるはずだから、付き添ってあげる」という考えをもった児童もいました。



4年1組、2組、3組

【主題名】

父母の愛（家族愛、家庭生活の充実）

【教材名】

「ぼくの生まれた日」（出典 藤子・F 不二雄作『ドラえもん』 小学館刊 所収

「ぼくの生まれた日」 文溪堂）

【ねらい】

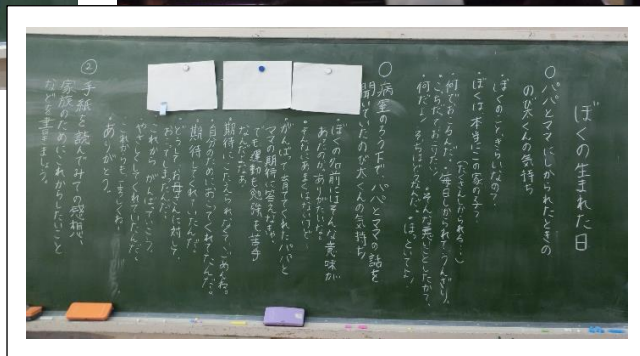
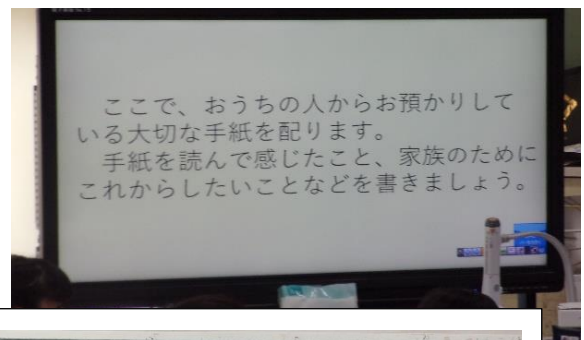
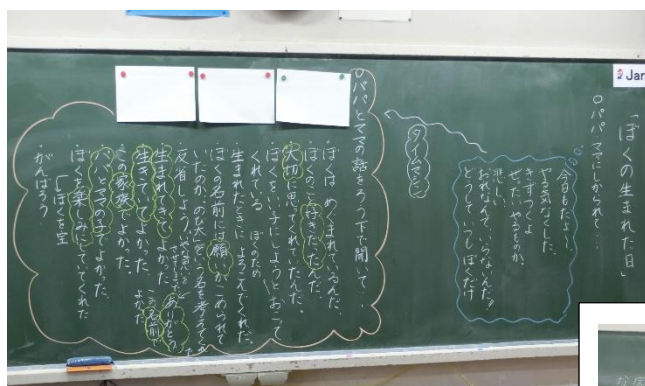
父母、祖父母、兄弟を敬愛し、協力し合って楽しい家庭を作ろうとする心情を育てる。

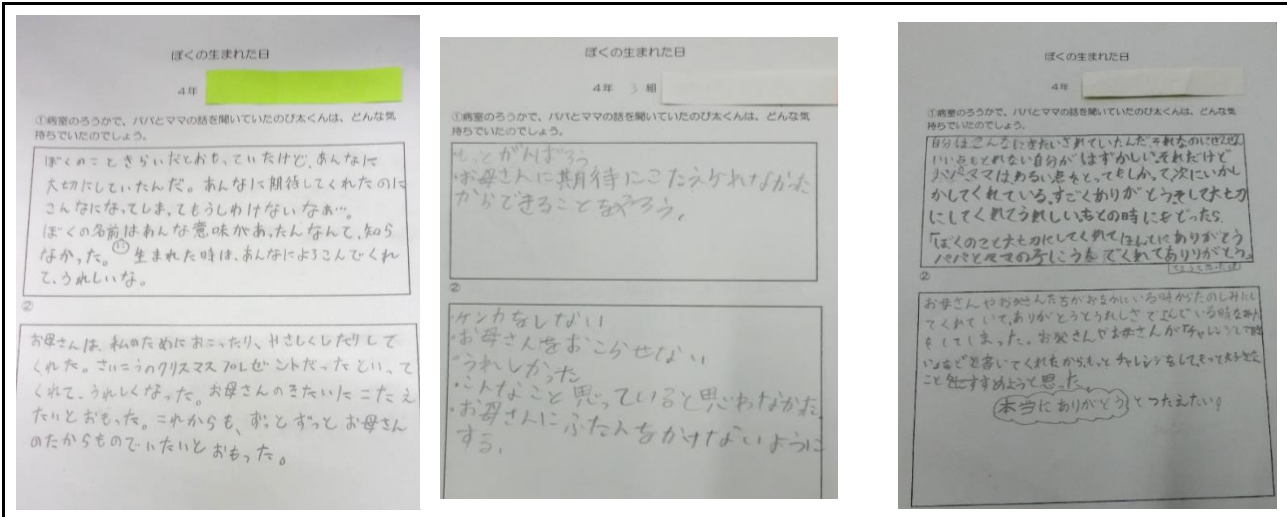
【実践報告】

本時の教材のお話は、主人公が勉強せず、両親に叱られる場面からスタートします。叱られた気持ちを問うと、「叱られてばかりでいやになっちゃう。」「自分がやろうと思っていた時に、勉強しなさいと言われてやる気がなくなった。」などの意見が出されました。特に、「やろうと思っていた時に」という意見には多くの子が頷き、「私もよくある。」という声も多く聞かれました。自分の経験を振り返り、主人公の心情に共感していました。次の場面では、タイムマシンで主人公が生まれた日に行き、病院の廊下で両親の会話を聞きます。子供たちは、両親の愛情に気付いた主人公の気持ちを想像し、いろいろな言葉で表現していました。

授業の終末には、保護者の方に事前にお願ひし、子供たちには秘密にして書いていただいたお手紙をそれぞれに配りました。驚きの声と、期待する表情が広がります。手紙を読み始めると静かになり、やがて、一人二人とすすり泣く声が聞こえ始め、号泣する子もいました。家族の方の自分への愛情の深さに、改めて気付くことができました。「すごく考えて自分の名前を付けてくれたのだと初めて知った。」「パパとママの子に生まれてよかった。」「これからがんばろうと思った。」と、ワークシートから、家族の一員である幸せな気持ちや将来への希望が伝わってきました。

ご多用の中、お手紙を書いていただきありがとうございました。





5年1組、2組、3組

【主題名】

分かり合うために（相互理解・寛容）

【教材名】

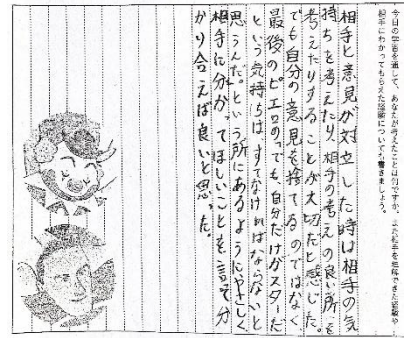
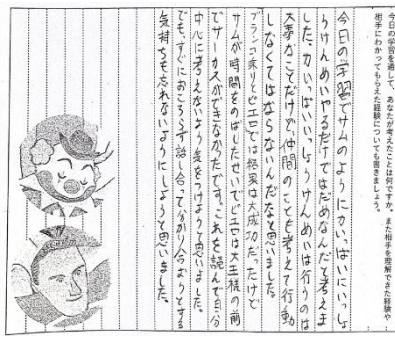
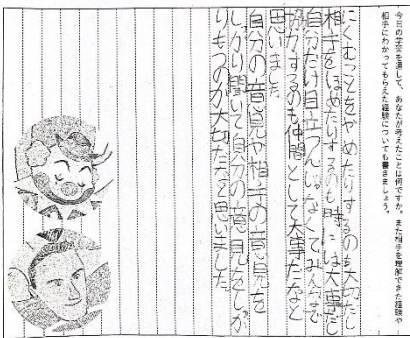
ブランコ乗りとピエロ

【ねらい】

考えの違う者同士が関わり合って暮らすためには、どのような気持ちや態度が必要かを考え、自分の考えを相手に伝えるとともに、広い心で相手の思いや立場を尊重しようとする心情を育てる。

【実践報告】

友達と意見がすれ違った経験は誰にでもあります。そんな時にどんな心持ちで関わっていけばよいのかを考え、教材に取り組みました。ピエロとサム、それぞれの立場から考えることを通して学習を進めました。空中ブランコの演技の時間についてピエロとサム両方の立場から考えると、二人は反対の感情を抱いていることが分かりました。その後、二人が意見の違う相手をどう理解していくのかを考えるために、教師がピエロ役、子供がサム役で役割演技を行いました。ピエロ役が「サムは力いっぱい頑張っている。だから観客の心を打つんだ。でも、このことだけは分かってほしい。」と語りかけると、サム役は「今まで好き勝手してごめん。」「ピエロが私を認めてくれた。」「これからはピエロと頑張っていきたい。」と応じました。その様子を見ていた子供から、「グループワークの話合いでも相手が意見を聞いてくれた時が嬉しかった。」という呟きがありました。振り返りシートには、「相手と意見が対立した時は、相手の立場を考えることが大切だと感じた。でも自分の意見を捨てるのではなく、相手に分かってほしいことを話してわかり合えばいい。」といった考えが出されました。



6年1組

【主題名】

広く受け入れる心（相互理解・寛容）

【教材名】

ブランコ乗りとピエロ

【ねらい】

自分と異なる考えや意見を尊重し、大切にしていこうとする態度を育てる。

【実践報告】

相手の考えや意見を受け入れるように変容していく、場面ごとのピエロの気持ちを考えました。個々の持つピンクと青の紙コップを“プラスの気持ち”“マイナスの気持ち”として、発問ごとに机の上に置きました。それにより、発言しない子供も含めお互いの意見の立場を知ることができ、より変容していくピエロの気持ちを実感できました。また、机をコの字に配置し相互指名しながら進めることで、お互いが考えたり発言したりする様子を表情も含めて感じとりながら、自身の考えを深めていきました。最終場面の発言では、ねらいとする「みんなで」「いっしょに」「おたがいに」といったキーワードが自然と多くの子供から出てきました。



ブランコ乗りとピエロ

名前()

今日の学習や、これまでの自分を振り返って...
ピエロのように広い心をもつために大切なことは何か、
考えを書きましょう。

相手の考えを知ろうとして、その教を
認めて、自分の考えを見直し、相手の
考えも見直し、いいところ、悪いと
ころを見分け、それについて話し
あい、いいところほと入れ、
悪いところをどのように改善
していけばいいか考え、
よりよいものにする事。
相手の考えを全面的に否定しないこと。
相手の考えに対する疑問を
全て解消して、
相手の考えを
深く理解すること。



ブランコ乗りとピエロ

名前()

今日の学習や、これまでの自分を振り返って...
ピエロのように広い心をもつために大切なことは何か、
考えを書きましょう。

おたがいを認め合い、自分だけ必々と
自分中心ではなく相手も楽しく
思えるようにしたい。

②、悪いところだけでなくいいところを見る

相手のいいところをわかったら、相手を認
めたりする。



ブランコ乗りとピエロ

名前()

今日の学習や、これまでの自分を振り返って...
ピエロのように広い心をもつために大切なことは何か、
考えを書きましょう。

自分のことばかりを考えればいい位は
持てないと思つたから、人の心はやはり見分け
たりして自分の思い通りのことは必ず合点の
か考えたりしてやる。
自分のことばかりを考へるのとはなく相手のことも
考えこつて「おたがいの」を「おれ」を自分の心で
考えこつてやること大切。

③、その人のいい所を見つかる
ると相手のことも理解して深く考えこめる



6年2組

【主題名】

自分の心に誠実に (正直・誠実)

【教材名】

手品師

【ねらい】

大舞台での活躍と幼い子供と交わした約束との間で迷った手品師の姿を通して、「誠実に生きる」とはどういうことかを考えさせ、自分自身に誠実でいようとする心情を育てる。

【実践報告】

過ちや失敗は誰にも起こりうることでありますが、その時に嘘を言ったり、ごまかしたりすると、それは真の解決になりません。このようなことは、他者との関係においてのみならず、自分自身の中にも後悔や自責の念、良心の呵責などを生じさせることにもなります。正直な心を持ち、自分自身に対して誠実に生活しようとする事の大切さについて教材を通して考えました。腕のいい売れない手品師は、ある日、町で男の子に手品を見せました。明日も来てくれるかという男の子に、きっと来ると約束しました。その日の夜、友人から明日大劇場の出演できるかという電話を受け、手品師はどちらを

とるか悩みます。悩む手品師の立場にたつてどちらを選ぶのがよいか考えました。「約束は守らなければ」や「男の子を裏切ってはいけない」、「先にした約束が優先」と言つて、約束を選ぶ児童や、「次のオファーがもらえないかも」、「長年の夢が叶う」、「二度とない機会かもしれない」と大劇場を選ぶ児童も居て様々な受け止めや反応がありました。「誠実に生きる」について考える場面では、「約束は守る」といった考えや「自分に正直に生きる」、「自分に素直にする」など自分自身の内面についても振り返ることができました。



6年3組

【主題名】

かけがえのない命（生命の尊さ）

【教材名】

おじいちゃんとの約束

【ねらい】

祖父の死をきっかけに、命の意味を深く考えるようになった信二の姿を通して、命の重みについて考えさせ、人間の死の重さや命のかけがえのなさを理解したうえで、限りある命を懸命に生きようとする心情を育てる。

【実践報告】

この教材は、信二が友達とゲーム中に「死ねえ！」と言つて盛り上がる場面から始まります。「死」という言葉を簡単に使ってしまった経験はないか、まずは自分のこれまでを振り返ってもらいました。オンラインゲームも流行っており、この場面は具体的に想像が付きやすかったようで、教師から問わなくても「こんなに安易に『死』という言葉を使うのはふさわしくない」と、始めから真剣に考えていました。その後、学者であるおじいさんが亡くなります。信二はいつも「学者の孫なのに自分

には何もとりえがない。」と書いておりましたが、おじいさんは最期に「とりえが大事なのではない。私の人生は私の人生。信二の人生は信二の人生。背伸びせず、自分らしく、精いっぱい生きれば、だれにもはじめることはない。」というメッセージを残します。信二とおじいさんが約束した「精いっぱい生きる」とは、具体的にどのような生き方なのか、個人で考えた後、班で話し合っってホワイトボードにまとめました。「辛いことや嫌なことがあっても前向きに生きる」「一日一日を後悔のないように生きる」「今できることを大事にして、精一杯がんばる」「まず、自分にできることは勉強」「自分に自信をもつ」など、自分なりに考えたことを積極的に表現していました。“自分らしく”生きる生き方は人それぞれ多様であるはずですが、6年生の体育科活動発表会のテーマも「“今”を精一杯生きる」なので、最後はそれとも結び付けてなぜこのテーマにしたのかを話して締めくくりました。たとえば困難や辛い状況でも、いい加減な言葉で片付けず、自分の可能性を信じてチャレンジしていきたいと、今後の活動に意欲をもっていました。

